３　授業実践例

第１学年　「おむすびころりん」

①実践を通して目指す学び合いの姿

歌を聞いている時のおじいさんの様子や気持ちを想像し発表し合うことで「あっ，そうか」「なるほど」と共感し，それらの考えを取り入れながら「三つの歌」について音読の工夫をしていく姿。

②本時における研究の視点へのアプローチ

○研究の視点①【学習課題の設定】
「コメント入り音読発表会」を開くことを単元を通して意識させながら，「おじいさんのしたこと」から子どもたちが疑問に思ったことを話し合わせることで，その時に聞こえた「３つの同じ歌は，同じ読み方でいいのかな」という学習課題を解決させていく。

○研究の視点②【一人一人の考えのよさを認める発言や教師の価値付け】
子どもたちの気づきや感想を価値付けて，本時の学びを意味付けていく。また，子どもたちが読み深めたことを音読に生かしている姿を見取り，価値付けていく。

③授業の実際

【目標】　歌を聞いている時のおじいさんの様子や気持ちを想像しながら，「三つの歌」の音読の工夫を考えることができる。

【展開】

過程	時間	学習活動と子どもの姿	教師の発問(□)ゆさぶりの発問(■)支援(・)評価(※)
つかむ	５	１　前時の学習を振り返り，今日のめあてを確かめる。	・本時の場面には，同じ歌が３回出ていることを確認し，「音読発表会」に向けて音読の工夫をすることを確かめる。
		三つの歌をどのように読むのか，おじいさんのしたことから考えよう。	
もとめる	１５	２　課題を把握し，考えをもつ。 おじいさんのしたことは，「のぞく」「耳をあてる」「ころがす」「おどりだす」だね。	□おじいさんの行動（したこと）を確認し，「おじいさんがどうしてそうしたのか，おじいさんの気持ちになって考えましょう。」と課題を出し，「２つ目をころがした」「歌に合わせて踊り出した」のうち，書きやすい方から書くように指示する。
ふかめる	２０	３　課題についての考えを発表し合う。 どうして２つ目をころがしたかというと，歌がおもしろいから，ずうっと聞いていたかったからだよ。 ３つ目の歌の時は，もう心が歌にのっていて夢中だったから，リズムもボリュームも上がっているよ。	・「おじいさんは，どうして～したんですか。」とおじいさんにたずねる話形を示し，インタビュー形式で考えを交流させる。早く書き終わった児童から教室後方でペアを作り交流する。 ■児童の考えを受けて**「どうして感動したの。」「どのくらいおもしろいの。」**など想像がふくらむような発問を全体に投げかけ，深めていく。 ■**「どの歌を一番大きく読みますか。それはどうしてですか。」**と問い，おじいさんがどんどん楽しい気持ちになってきていることに気づかせ，おじいさんの気持ちにともなって，歌を読む調子も変化させるとよいことに気づかせる。
まとめる	５	４　課題についてのまとめをする。 はじめは，「耳をあてた」のだから，小さく読んだほうがいいと思うよ。	※「どんな音読の工夫ができたか，最後にみんなで読んでみましょう。」と呼びかけ，読みを音読に生かしている姿を価値付ける。 【評価基準Ｂ】 おじいさんの様子や気持ちに即して，声の大きさを意識しながら音読している。

④成果と課題

○同じ言葉でも場面の様子や人物の気持ちで，読み方が違うことに気づいていくことができた。
○「おじいさん，どうして２つめをころがしたんですか。」とおじいさんに尋ねるインタビューの形を取ったことで，聞く人，話す人，双方向からの活動になった。
●「２つ目をころがした時」「踊り出した時」の２つの行動から選んで書くように指示したため，交流の時も場面が違い，話しにくそうだった。一つの場面に絞って考えさせた方がよかった。
●全体で音読することで，工夫や変化が見られたが，個々の成長が見えず，一人一人の読みの変化や成長を見取ることが難しかった。隣の人と地の文・歌に分かれて音読し，相互評価をさせることも効果的だったと考える。

第２学年　「お話を読んで，かんそうを書こう『スイミー』」

①実践を通して目指す学び合いの姿

友達の考えに「似ています」「違います」「他にもあります」と言ってかかわろうとする姿。
友達の考えに納得する「あ～」や，自分では想像しなかった考えに驚いたり気づいたりする「あっ」というつぶやきが発せられたりする姿。

②本時における研究の視点へのアプローチ

○研究の視点①【ゆさぶりの発問】
「もし，またまぐろが来たらどうするの。岩かげから出たら食べられてしまうよ。岩かげにじっとしておいたほうがいいんじゃないの。」というゆさぶりの発問をし，スイミーが，兄弟たちと楽しい暮らしを送るために，大きな魚に立ち向かうことを必死に考えたことに気づかせる。
○研究の視点②【学習の目標とかかわらせた学習感想と交流】
話し合いで分かったことや友達の意見でよかったところ等について発表させ，学習を振り返らせる。

③授業の実際

【目標】場面の様子や人物の行動・会話を読み取り，人物の気持ちを想像することができる。

【展開】

過程	時間	学習活動と子どもの姿	教師の発問(□)ゆさぶりの発問(■)支援(・)評価(※)
つかむ	５	１　これまでの学習を振り返り，本時のめあてを確かめる。	・単元を貫く言語活動「とっておきのスイミーカード」作りの元となる学習であることを伝える。
		スイミーのようすや気もちを読んで，スイミーに言ってあげたいことを書こう。	
もとめる	２０	２　４の場面を音読し，場面の様子，スイミーの様子や気持ちを読み取る。 きょうだいたちは本当は岩かげにかくれていないで，広い海であそびたいと思っていると思います。でも大きな魚がこわいから・・。 ３　課題を把握し，考えを持つ。 １の場面に楽しくくらしていたと書いてあるので，もとの生活にもどりたい，みんなといっしょに生きようと考えたから・・・。 	・「そのとき」「岩かげ」「そこ」「じっと」などの言葉に着目させながら，場面の様子をつかむ。 □「そっくりの小さな魚の兄弟たちを見つけたときのスイミーはどんな気持ちでしょう。」 ・そっくりの小さな魚の兄弟たちはどうして岩かげにいるのか，本当はどうしたいのか考えさせる。 □どうしてスイミーはそんなに考えたのでしょう。」という疑問型の学習課題を設定し，意欲を持たせる。 ・「どうしてかというと」という書き出しをあたえて，書きやすくする。 ・全員が自分の考えを表出できるようペアトークを取り入れる。（ペアトーク）
ふかめる	１５	４　課題についての考えを発表し合う。 大きな魚を追い出して平和な世界にしたいから，平和に暮らしたいから，じっとしていないで追い出すことを考えたと思います。 ５　スイミーに言ってあげたいことを書く	・「○○さんと似ていて・・」「○○さんと違って・・」と言って友達の意見にかかわらせる。（全体での発表） ■**「もし，またまぐろが来たらどうするの。岩かげから出たら食べられてしまうよ。岩かげにじっとしておいたほうがいいんじゃないの。」**と問い，考えを広げたり深めたりさせる。 【評価基準Ｂ】 「すばらしい海の世界をみんなに教えたい」「以前のようにみんなと楽しくくらしたい」というスイミーの気持ちのどちらかについて書いている。
まとめる	５	６　振り返りをする。 ・友達の発表を聞いて，分かったことやなるほどなと思ったことを発表する。	※スイミーに言ってあげたいことには，本時の学習で学んだことを生かして，自分の体験を入れながら豊かに想像している。

④成果と課題

○話し合いの中で「似ています」等の言葉で友達の意見にかかわろうとする児童が増えてきた。
○ゆさぶりの発問をしたことで「やっぱり岩かげにとどまっておいたほうが安全だ。」という意見と「ここにじっとしておくわけにはいかない。」という意見が対立し，話し合いが深まった。
●学習感想を交流する場面では，学習の目標とかかわった内容を感想に書いている児童を意図的に指名することができなかった。振り返りをする時間は短いが，大切にしたい。

第３学年　「読んで，考えたことを発表しよう『海をかっとばせ』」

①実践を通して目指す学び合いの姿

ワタルがどんな人物か根拠と理由を関連付けて考え，友達の感じ方と自分の感じ方の違いを意識しながら感想を交流していく姿。

②本時における研究の視点へのアプローチ

○研究の視点①【学習課題の設定】
秘密の特訓をしているワタルは，「『流木がクビナガリュウみたいに』というところから，こわがりではないか」と問い，ワタルがどんな人物か考えさせる。

○研究の視点②【学習の目標とかかわらせた学習感想と交流】
ワタルと自分を比べて，似ているところや違うところで意見を出し合い，友達と自分の感じ方の違いを意識させながら感想を交流させる。

③授業の実際

【目標】秘密の特訓をはじめたワタルの人物像を読み取り，自分と比べることができる。

【展開】

過程	時間	学習活動と子どもの姿	教師の発問(□)ゆさぶりの発問(■)支援(・)評価(※)
つかむ	５	１　前時までの学習の振り返りと本時のめあての確認をする。	■**「『流木がクビナガリュウみたいに』というところから，「こわがりなワタル」ではないか。」**と投げかけ，ワタルがどんな人物か考えさせる。
もとめる	２０	ひみつのとっくんをするワタルは，どんな人物か考えよう。 ２　秘密の特訓をはじめたワタルの人物像を読みとる。 「力いっぱいバットを振った」「気合をこめて」とあるからワタルは，努力家だと思います。	・秘密の特訓が分かるところ（いつ，どこで，したこと）にサイドラインを引かせ，そこからどんな人物だと考えるか教科書に書き込ませる。 ・行動や場面の様子等から人物像が分かることをおさえる。 ・ワタルと自分を比べて，似ているところや違うところを見つけさせる。
ふかめる	１５	３　ワタルと自分を比べて考えたことを発表する。 私もバスケでベンチに座っているけど，シュートやドリブルの練習をするところが似ています。 ワタルと違うところは，素振りを６６回まで練習するところです。私ならつかれてしないです。	・全員が自分の考えを表出できるようペアトークを取り入れる。（ペアトーク） ・教科書の話型を意識させ発表させる。 （全体での発表） ・全体の発表では，似ているところや違うところで意見を言わせ，友達の感じ方と自分の感じ方の違いを意識させながら感想を交流させる。 ■**「みんなは，毎日やっていることがありますか。」**と問い，ワタルと自分と比べさせる。 ・発表した友達に対して感想を返すことで交流を深めさせる。
まとめる	５	４　学習のまとめを書く。 ・ワタルはがんばりやで強い人，こわいのをがまんして練習をするから。 ・ワタルはけっきょくがんばりやでがまん強い人物。 ・友達の意見で荒木さんの意見がよかった。	※感想を書く視点（ワタルがどんな人物か，自分と比べたワタルのよさや友達の考えでよかったところ）を確認させて書かせる。 【評価基準Ｂ】 行動や様子から，ワタルががんばりやであることや負けず嫌いであるということなどが分かり，自分と比べてシートに書いている。

④成果と課題

○ワタルがどんな人物か考えるだけでなく，自分との相違点も考えることで，一人一人の感じたことを出し合うことができた。

●子どもたちの学習意欲を高めるため，「なぜだろう」「もっとやりたい」と思うような学習課題にする必要があった。

●感想を交流する中で，友達の意見のよさについては感じ取ることができた。今後はさらに，どの感じ方がよかったのか，具体的に表せるような感想の交流を目指す必要がある。

第４学年　「物語を読んでしょうかいしよう『一つの花』」

①実践を通して目指す学び合いの姿

作者が「一つの花」という題名にした理由を考え，友達の意見と「似ています」「違います」「意見があります」という言葉でつなげ，意見を聞き合いながら「そうか」「なるほど」等のつぶやきをしながら共感していく姿。

②本時における研究の視点へのアプローチ

○研究の視点①【学習課題の設定】
児童全員が考えをもてるように「一つの花」という題名と対比させた考えを教師側から示し，「一つの花」の方が題名としてふさわしいという考えをもたせる。その後，なぜ作者の考えた題名が「一つの花」なのかについての理由を根拠をもとに話し合わせていく。

○研究の視点②【学習の目標とかかわらせた学習感想と交流】
話し合いのあとで，めあての「題名を『一つの花』にしたわけ」についてまとめさせ，発表させる。

③授業の実際

【目標】 題名が付けられたわけを考え，作者が題名に込めた特別な意味に気づくことができる。

【展開】

過程	時間	学習活動と子どもの姿	教師の発問(□)ゆさぶりの発問(■)支援(・)評価(※)
つかむ	5	1　これまでの学習を振り返り，本時のめあてを確かめる。 作者が題名を「一つの花」にしたわけを考えよう	・単元を貫く言語活動「しょうかいカード」作りの元となる「題名のわけ」を考える学習であることを確かめる。
もとめる	7	2　課題を把握し，考えをもつ。 「ゆみ子とお母さん」は登場人物を紹介しているだけだから違うし，「一つのおじぎり」は，ゆみ子がただ食べただけのものだから違うと思う。	・登場人物や物で題名を表した「ゆみ子とお母さんとお父さん」「一つのおじぎり」という例を示し，作者の題名と比べさせる。 □「一つの花」と「一つのおじぎり」では，題名にふさわしいのはどちらかという発問を行い，作者の考えた「一つの花」がよいという考えをもたせる。 ・題名の理由について，根拠を元に考えさせる。
ふかめる	２０	3　課題についての考えを発表し合う。 ゆさぶりの発問後のペアトーク 僕は，「一つのコスモス」でもいいと言った○○君の意見とは違うよ。「コスモスはお父さんがあげた物だけど花には他の意味も表していると思う。	・「似ていて」「違って」などの他の意見とつなぐ言葉を使って発言させることで，意見を述べる際に立場をはっきりさせる。 ・似ている意見から優先的に発言していくようにする。 ■**「『一つのコスモス』でもよいのではないか』という友達の考えについて，どう思いますか。」**と問い，「特別な意味が込められている」という考えを深めていく。
まとめる	5	4　課題についてのまとめをする。 昔話では登場人物が題名になっているものがあると思うけど，僕は「一つの花」には，物語の大事な気持ちを表していたと思います。	・話し合いで出された意見を振り返り，どういう内容だったかを価値付けることで，話し合うことのよさを感じさせ，意欲を高める。 ・本時の学習とこれまでの読書経験をつなぐために，「題名が特別な意味をもっているもの」ということを想起させる。
	8	5　今日のめあてについて，一人一人が振り返りをする。 「しょうかいカード」に今日話し合った題名のわけについてまとめよう。 	※題名を「一つの花」にしたわけについて話し合ったことも取り入れさせながら，まとめるようにする。 【評価基準Ｂ】 作者が題名に特別な思いをこめていることに気づいている。

④成果と課題

○話し合う中で，ある児童が「一つのコスモス」でもよいのではないかという考えを出した。そのことで，これまで出された考えを振り返り，題名に「花」という言葉が使われている理由を深く考えるようになった。その「花」という言葉に絞って考える中で「そうか」「なるほど」というつぶやきが出ていた。

○対比させる考えを示すことで，全員が考えをもつことができた。

●時間的に話し合いの活動が長くなってしまい，一人一人が振り返る時間が取れなかった。授業展開の時間配分を適切に行っていく教師側の手立てがもっと必要である。

第５学年　「伝記を読んで，自分の生き方について考えよう『百年後のふるさとを守る』」

①実践を通して目指す学び合いの姿

　儀兵衛の考え方や生き方から，それぞれが考えた儀兵衛の人物像や自分の生き方と比べて共感したところや共感しないところを根拠や理由をもとに発表していき，「○○さんと似ていて」「○○さんと少し違って」「自分だったら」というように，意見を交流し合う姿。さらに，友達の考えを聞いて，○○さんの発表を聞いて，前は～だったけどこんな考えに変わった。」など，改めて思ったことをまとめ発表していく姿。

②本時における研究の視点へのアプローチ

○研究の視点①【ゆさぶりの発問】
　交流の場で，儀兵衛の偉業に対して「自分は無理だ」という意見から疑問を投げかけ，小グループで話し合い，意見を出させていくようにする。

○研究の視点②【学習の目標とかかわらせた学習感想と交流】
　交流をした後に，感想の視点を与えて，友達の考えに共感したことや儀兵衛の生き方について改めて考えたことをまとめ，発表させる。

③授業の実際

【目標】儀兵衛の考え方や生き方と自分とを比較し，交流を通して考えを深めることができる。

【展開】

過程	時間	学習活動と子どもの姿	教師の発問(□)ゆさぶりの発問(■)支援(・)評価(※)
つかむ	2	1　学習のゴールを知る。	・単元を貫く言語活動「私の心をつかんだ『マイ人物事典』作り」につながる学習であることをおさえる。
	3	2　本時のめあてを知る。	
		儀兵衛の考え方や生き方と自分とを比べ，考えたことを交流しよう。	
もとめる	4	3　前時までにまとめた儀兵衛と自分とを比べたものをもとにして，ペアで発表し合う。 他人のために働くことが，心に響くと思いました。自分だったらお金は出しません。だから，人のためにお金を出すのは格好いいと思いました。	・自分の考えをあらかじめ持たせておき，友だちの意見との相違点を意識して紹介し合うようにする。 ・友達と自分との考えを比較したり，なぜそう考えたのか問うたりすることで発表者の考えをより深めるようにする。 ・友達の考えに対する自分の立場を明らかにして発表させるようにする。 ・ペアで交流したことを参考に，全体の場で意見交流をさせる。 ・お互いの立場が明らかになるような板書の工夫をする。 交流を踏まえて，自分の考えを付加・修正して広げたり，深めたりするようにする。
ふかめる	２３	4　全体で交流し合う。 Ｓ君と同じで，尊敬します。自分のお金で他人の家を建てるなんて。自分だったら何もしないと思います。	■児童の発言を受けて**「もし自分ならどうする。」「儀兵衛さんのしたことは無駄なのかな。」**と問うことで，自分と登場人物を比べたり後世に残る仕事であったことに気づかせたりする。 ・感想の視点として，儀兵衛について改めて思ったこと，儀兵衛と自分とを重ねて思ったこと，友達の考えから「なるほど」すごいなあ」と思ったことを挙げる。 ※板書を振り返り，友達の意見で参考になったことを意識させる。
まとめる	１０	5　交流を通して，深まったことを感想としてまとめる。 最後に発表した人の話を聞いて，堤防を作るということは，ふるさとを見捨てない，ということになると思いました。	
	3	6　本時の学習の振り返りをし，次時の学習の見通しをもつ。 今日学習したことを，「マイ人物事典」作りに役立てよう。	【評価基準Ｂ】 　意見交流から学んだことを踏まえて，自分のこれからの生き方についてまとめることができる。

④成果と課題

○事前に，儀兵衛の言動の中から共感したところについてまとめていたので，自分と重ねながら発言することができ，活発に発表し合うことができた

○学習感想を交流したことで，儀兵衛の業績や生き方についての理解が一層深まった。

●ゆさぶりの発問により話し合いは活発になったが，だんだん主題から離れてしまったところがあった。叙述に返って考えさせる発問になるようにする必要がある。

第６学年　「作品の世界を深く味わおう『やまなし』」

①実践を通して目指す学び合いの姿

宮沢賢治が「やまなし」という題名にした理由を考え，友だちの意見と「５月と１２月との比較から考えます」「宮沢賢治の生き方から意見があります」という言葉でつなげていく姿。意見を聞き合いながら「そうか」「なるほど」というつぶやきをして考えを深め広げていく姿。

②本時における研究の視点へのアプローチ

○研究の視点①【ゆさぶりの発問】
宮沢賢治が題名を「やまなし」にした理由について，児童一人一人に三つの視点（①５月と１２月の対比　②イーハトーヴの夢　③宮沢賢治のその他の本）から考えを持たせる。その後，根拠をもとに考えを出し合い，「なぜカワセミではないのか」「なぜカニの親子ではないのか」などのゆさぶりの発問をもとに話し合わせていく。

○研究の視点②【児童の実態を踏まえた単元の指導計画の作成】
「やまなしのショーウィンドウをつくろう」というめあてで単元を貫く言語活動を設定する。一単位時間毎に少しずつショーウィンドウを作成させ，完成後に相互交流をさせる。

③授業の実際

【目標】　題名が「やまなし」のわけを考え，宮沢賢治が「やまなし」を通して伝えたかったことを考えることができる。

【展開】

過程	時間	学習活動と子どもの姿	教師の発問(□)ゆさぶりの発問(■)支援(・)評価(※)
つかむ	8	1　これまでの学習を振り返り，本時のめあてを確かめる。 宮沢賢治が題名を「やまなし」にしたわけを考えよう。	・児童の初発の感想から，本時のめあてを確認する。
もとめる	7	2　課題を把握し，考えをもつ。 イーハトーブの夢での賢治の生き方から自然は厳しいものであるが，頑張れば，必ず作物は実り，人々や生き物は幸せになるという考えで題名をやまなしにしたんだと思う。	□「どうして題名をやまなしにしたのかを３つの視点『①５月と１２月の幻灯』②『イーハトーヴの夢』③『宮沢賢治の他の話』から考えましょう。」と問う。 ・題名の理由について，根拠をもとに自分の考えをまとめることを確認する。 ・初発の感想をもとにしためあてをたてることで，自分たちで解決しようとする必要性を児童が感じるようにする。
ふかめる	２０	3　課題についての考えを発表し合う。 ゆさぶりの発問後のペアトーク 私は「カニの親子の題名だったら，主人公ではあるけど，他の生き物に楽しみを与えていないし，自然の厳しさも伝わらないと思う。」	・「似ていて」「違って」「○○さんに付け加えて」などの他の意見とつなぐ言葉を使って発言させることで，意見を述べる際に立場をはっきりさせる。 ・似ている意見から，優先的に発言していくようにする。 ■**「なぜ，題名は『カワセミ』や『カニの親子』ではないのか。」**と問い，「やまなし」の題名になった理由に迫っていく。
まとめる	5	4　課題についてのまとめをする。 自然は厳しいものであるとともに，自分が生き生かされる世界であることを伝えたかったと思います。	・今日の学習や友達の考え，板書などを振り返ることにより，題名には作者が込めた思いや，読者に受け止めてほしい願いがあることをまとめる ・話し合いで出された意見の価値付けを行いまとめに生かせることを確かめる。
	5	5　今日のめあてについて，一人一人が振り返りをする。 やまなしの「ショーウインドウ」に今日のめあてについての自分の考えをまとめよう。 	・題名を「やまなし」にしたわけについて話し合ったことも取り入れさせながら，ショーウィンドウにまとめるようにする。 【評価基準Ｂ】 作者が，題名に込めた大事な何かを受止めて書いている。

④成果と課題

○題名読みをさせる際に，視点を与えて自分の考えをまとめることは，根拠をもった学び合いをするために有効だった。

○単元を貫く言語活動としてのショーウィンドウづくりは，学習のまとめとして毎時間意欲的に取り組むことができた。

●自分の考えをもつために，一人一人にあった支援が３つの視点だけでは不十分であったので，話し合いに参加できなかった児童もいた。今後は，一人学びをするときや自力解決の時間に具体的な支援が必要である。